

主任監督員

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
-------	------	-------------

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目			上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考
			/	/	/			
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	<input type="checkbox"/>				
	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる	施工時	岩盤掘削等において、基礎岩盤をゆるめるよう大きな大規模な発破を行っていないことが確認できる。(共8-4)	<input type="checkbox"/>				
	余掘り箇所の対処が適切であることが確認できる	施工時	掘削にあたって、基礎面をゆるめないよう施工し、浮石などは除去していることが確認できる。(共8-4)	<input type="checkbox"/>				
	基礎面を著しい凹凸のないように整形していることが確認できる。(共8-4)	施工時	基礎面を著しい凹凸のないように整形していることが確認できる。(共8-4)	<input type="checkbox"/>				
	基礎面の処理状況が適切であることが確認できる	施工時	設計図書により、建設発生土を指定された建設発生土受入れ地に運搬し、流出、崩壊が生じないように排水、法面処理を行っていることが確認できる。(共8-4)	<input type="checkbox"/>				
	基礎面の湧水の処理が適切であることが確認できる	施工時	監督員の承諾を得ないで掘削した箇所はコンクリートで埋め戻していることが確認できる。(共8-4)	<input type="checkbox"/>				
作業土工	堰堤工		基礎面における湧水の処理について、コンクリートの施工前までに設計図書に開いて監督員と協議していることが確認できる。(共8-3)	<input type="checkbox"/>				

施工状況確認シート

工事名 :			
工期 :	年 月 日 ~ 年 月		
主任監督員			

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
				下段 : コメント	□	□	
	コンクリートの打ち継ぎが適切であることが確認できる。	施工時	旧コンクリートの材令が所要日数に達した後に新コンクリートを打ち継いでいること が確認できる。あるいは、施工前に設計図書に関する監督員の承諾を得ていることが確認できる。(共8-3)	0.75m以上1.0m未満リフトの場合 : 3日 (中2日) 1.0m以上1.5m未満リフトの場合 : 4日 (中3日) 1.5m以上2.0m以下リフトの場合 : 5日 (中4日)	□	□	□
	コンクリートの打込養生方法が適切である ことが確認できる。	施工時	次の事項に該当する場合はコンクリートの打込みと養生方法について、施工前に設計図書に関する監督職員の承諾を得ていることが確認できる。(共8-4)	□	□	□	□
堰堤工	コンクリート打設面の基礎岩盤面の状況 が適切であることが確認できる。	施工時	(1)コンクリート打設現場の平均気温が4°C以下になるおそれのある場合。 (2)打込むコンクリートの温度が25°C以上になるおそれのある場合。 (3)降雨・降雪の場合。 (4)強風その他、コンクリート打込みが不適当な状況になった場合。	□	□	□	□
			コンクリート打込み前にあらかじめ基礎岩盤面の浮石、堆積物、油り及び岩片等を除去していきることが確認できる。(共8-4)	□	□	□	□
			コンクリートを打込む基礎岩盤及び水平打継目のコンクリートについては、あらかじめ吸水させ、湿潤状態にしておき、モルタルを塗り込むように敷均していくことが確認できる。(共8-4)	□	□	□	□
			モルタルの配合は本体コンクリートの品質を損なわないもので、また、敷き込むモルタルの厚さは平均厚度で、岩盤では2cm程度、水平打継目では1.5cm程度になっていることが確認できる。(共8-5)	□	□	□	□
			水平打継目の処理については、圧力水等により、レイタンス、雜物を取り除き、コンクリート表面を粗にし、清掃していることが確認できる。(共8-5)	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員	
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント	備考
5. 砂防堰堤工	コンクリート打設方法が適切であることが確認できる	施工時	コンクリート打込み用バケットを、その下端が打込み面上1m以下に達するまで降ろし、打込み箇所の面ができるだけ近くにコンクリートを排出していることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	コンクリートを打込み箇所に運搬後、ただちに振動機で締固めていることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	1リフトを数層に分けて打込む時には、締固めた後の1層の厚さが、40~50cm以下を標準となるよう打込んでいることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	1リフトの高さは0.75m以上2.0m以下とし、同一区画内は連続して打込んでいることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	コンクリートの養生において、一定期間、十分な湿潤状態を保つていることが確認できる。また、養生方法の選定にあたっては、その効果を確かめ、適切に湿潤養生期間を定めていることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	止水板、吸出し防止材の設置状況が適切であることが確認できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	止水板の接合において合成樹脂製の止水板を使用する場合は、突合わせ接合としていることが確認できる。また、接合完了後には接合部の止水性について監督員の確認を受けていることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	吸出し防止材の施工については、吸出し防止材を施工面に平滑に設置していることが確認できる。(共8-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	植石は、その長手を流水方向に平行においていることが確認できる。(共8-6)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	植石張りの目地モルタルについては、植石張り付け後ただちに施工し、目地は押目地仕上げをしていることが確認できる。(共8-6)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			コメント	備考
				□	□	□		
堰堤工 (鋼製)	桿材のつり込み状況 が適切であることが 確認できる。	施工時	鋼製枠の吊り込みにあたっては、塗装面に 損傷を与えないようにしているこ とが確認できる。(共8-6)	□	□	□	□	□
	桿内中詰め材の投入 方法が適切であるこ とが確認できる。	施工時	桿内中詰め材投入の際には、鋼製枠に直接詰 石、建設機械等が衝突しないようにしてい ることが確認できる。(共8-7)	□	□	□	□	□
	ボルトの締付確認が実施さ れ、記録を保管する ことが確認できる。	施工時	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管 していることが確認できる。(共3-33)	□	□	□	□	□
	塗装時期が適切である ことが確認できる。	施工時	鋼製堰堤の現場塗装は、鋼製堰堤の据付け 終了後に行なっているこ とが確認できる。 これ以外の場合は、設計図書によ つていること が確認できる。(共3-39)	□	□	□	□	□
	被塗装面の素地調整状態を確認したうえで 下塗りを施工しているこ とが確認できる。(共3-41)	施工時	被塗装面の素地調整状態を確認したうえで 下塗りを施工しているこ とが確認できる。(共3-41)	□	□	□	□	□
	現場塗装部のケレン 及び膜厚管理を行 っていることが 確認できる。	施工時	天災その他の理由によりやむを得ず下塗り が屋外、そのためさびが生じたときは再び 素地調整を行 い、塗装しているこ とが確認できる。(共3-42)	□	□	□	□	□
現場塗装工			塗料の塗り重ねにあたって、先に塗布した 塗料が乾燥(硬化)状態にな っているこ とが確認できる。 (共3-21)	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日		
主任監督員			

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			備考
				下段：コメント	□	□	
	現場塗装部のケレン及び隕厚管理を適切に行っていることが確認できる。(共3-42)	施工時	現場塗装終了後、塗膜厚検査を作成及び保管していることが確認できる。	□	□	□	□
	塗布作業時の気温・湿度の制限が共通仕様書表3-2-11に示す場合は、塗装を行っていないことが確認できる。(共3-40)		塗布作業時の気温・湿度の制限が共通仕様書表3-2-11に示す場合は、塗装を行っていないことが確認できる。	□	□	□	□
現場塗装工	現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。	施工時	現場塗装終了記録を作成及び保管していることが確認できる。(共3-42)	□	□	□	□
				□	□	□	□
法面工	アンカーの施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	アンカーの削孔に際して、設計図書に示された位置、削孔径、長さ及び方向で施工し、周囲の地盤を乱さないよう施工していることが確認できる。(共3-156)	□	□	□	□
				□	□	□	□

表 3-2-11 塗装禁止条件

塗装の種類	気温 (℃)	湿度 (RH%)
長ばく形エッジングプライマー	5 以下	85 以上
無機シリカチップライマー	0 以下	50 以下
無機シリカチペインント	5 以下	85 以上
有機シリカチペインント	5 以下	85 以上
エボキシ樹脂塗料下塗	10 以下	85 以上
変性エボキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上
変性エボキシ樹脂塗料内面用	5 以下	85 以上
亜鉛めつき用エボキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上
弱溶剤形変性エボキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上
超厚膜形エボキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上
エボキシ樹脂塗料(低温用)	5 以下、20 以上	85 以上
変性エボキシ樹脂塗料内面用(低温用)	5 以下	85 以上
無溶剤形変性エボキシ樹脂塗料	10 以下、30 以上	85 以上
無溶剤形変性エボキシ樹脂塗料(低温用)	5 以下、20 以上	85 以上
コンクリート塗装用エボキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上
ふつ素樹脂塗料用中塗	5 以下	85 以上
弱溶剤形ふつ素樹脂塗料用中塗	5 以下	85 以上
コンクリート塗装用未軟化エボキシ樹脂塗料中塗	0 以下	85 以上
ふつ素樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上
弱溶剤形ふつ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上
コンクリート塗装用柔軟形ふつ素樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上
輪・クロムフリーさび止めペイント		
長油性フル酸樹脂塗料中塗		
長油性フル酸樹脂塗料上塗		

施工状況確認シート

工事名 :

工期 :

年 月 日 ~ 年 月

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目						備考
			上段：日付・チェック欄			下段：コメント			
法面工 アンカーチューブの仕様を満足している 計図書が設置されている	施工時	施工時	削孔について直線性を保つよう施工し、削孔後 の孔内には清水によりスライムを除去し、洗浄し ていることが確認できる。(共3-156)	<input type="checkbox"/>					
	施工時	施工時	材料を保管する場合は、保管場所を水平で平らな所を 選び、地表面と接しないようにシート等で覆い、湿気、水に対する 配慮を行っていることが確認できる。(共3-156)	<input type="checkbox"/>					
	施工時	施工時	アンカーチューブの緊張・定着についてはグラウトが所定の強 度に達したのち緊張力を与え、適性試験、確認試験、 定着時緊張力確認試験等により、変位特性を確認し、 所定の有効緊張力が与えられるよう緊張力を与えてい ることが確認できる。(共3-156)	<input type="checkbox"/>					
	打設前	打設前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温 度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち 重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されて いることが確認できる。(共1-57)	<input type="checkbox"/>					
	打設前	打設前	JISマーク表示されたレディーミックスコンクリート シートは、工場が発行するレディーミックスコンクリート シート納入書を整備及び保管していることが確認でき る。(共1-49)	<input type="checkbox"/>					
	コンクリート工 準備工	打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する 場合は、品質管理データが確認できる他の公共 工事の示方配合表について監督員の確認を得て いることが確認できる。(共1-52)	<input type="checkbox"/>					
打設前	打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空 気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量 及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配 合表により監督員の確認を得ていることが確認でき る。(共1-49)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、 無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物 量(C L-)が、許容塩化物量0.30kg/m ³ 以下となっ ていることが確認できる。(共1-47・52)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 : 工事期 : 年 月 日 ~ 年 月	主任監督員
--	--

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目			上段 : 日付・チェック欄	下段 : コメント	備考
			□	□	□			
型枠・支保工	コングリート打ち込み中の型枠・支保工の管理が適切であることが確認できる。	施工時	コングリートの打ち込み前おおよび打ち込み中に管に、型枠及び支保工の不具合の有無を適切に管理していることが確認できる。(共3-165)	□	□	□	□	□
鉄筋工 (受入・貯蔵)	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。 鉄筋の貯蔵が適切に行われていることが確認できる。	施工時	工事に使用した材料の品質を証明する、試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質規格証明書を受注者の責任において整備、保管していることが確認できる。(共2-3)	□	□	□	□	□
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工が満足していることが確認できる。	施工時	屋外に貯蔵する場合は、松木・盤木等を適切に配置し、鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしている。(共1-61)	□	□	□	□	□
			現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する時には、既往の実績を調査し、現地において試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確かめたうえで施工している) (共1-61)	□	□	□	□	□
			設計図書に示されていない鋼材等(組立用鉄筋や金網、配管等)を配置する場合は、その鋼材等についても所定のかぶりを確保し、かつその鋼材等と他の鉄筋とのあきさきを粗骨材の最大寸法の4/3以上としていることが確認できる。(共1-62)	□	□	□	□	□
			鉄筋の重ね継手を行いう場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径0.8mm以上のなまし鉄線で数ヶ所緊結していることが確認できる。(共1-63)	□	□	□	□	□
			設計図書に明示した場合を除き、継手を同一断面に集めていないことが確認できる。(共1-63)	□	□	□	□	□
			将来の継ぎたしのためには、損傷、腐食等をうけないようにこれを保護していることが確認できる。(共1-63)	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :

工期 :

年 月 日 ~ 年 月

主任監督員

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目						備考
			上段 : 日付・チェック欄			下段 : コメント			
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工 が、設計図書の仕様 を満足していること が確認できる。	施工時	契約図面に定めた位置に、鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう十分堅固に組み立てていることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>	鉄筋の組立図より事前に配筋精度を確認しておく。				
	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm 以上のなまし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。(共1-62)	施工時	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm 以上のなまし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>					
鉄筋工 (スペーサー)	コンクリート打設まで に、さびび、油等の に有害物が鉄筋に付着し ることが確認できる。	施工時	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き鏽、じろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれがあることが確認できる。(共1-62・63)	<input type="checkbox"/>					
	スペーサーの品質及 び個数が、設計図書 の仕様を満足してい ることが確認でき る。	施工時	スペーサーを、構造物の側面については 1 m ² あたり 2 個以上、構造物の底面については 1 m ² あたり 4 個以上設置し、鉄筋の所定のかぶせりを確保していることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>					
	モルタル製で本体コンクリートと同等以上の品 質を有するものを使用していることが確認でき る。(共1-62)	施工時	スペーサーについてもコンクリートと同様の品 質を有するものを使用していることが確認でき る。(共1-62)	<input type="checkbox"/>					
コンクリート 受入	コンクリート受入時に 必要な試験を実施して おり、温度、スランプ 、空気量等の測定結果 が確認できる。	施工時	コンクリートの品質を確かめるための検査を JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) により実施しているか、生産者等に検査のための試験を代行させることは、受注者がその試験に臨場していることが確認できる。(共1-52)	<input type="checkbox"/>					

施工状況確認シート

工事名：

工期：

年 月 日 ~ 年 月

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考	
5. 砂防堰堤工	コンクリート受入	打設前	レディミキストコンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われば、規格値を満足していることが確認できる。(管3-12~19)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □			
	コンクリート受入	試験項目 (管3-16)	試験方法 JIS A 1101 ・荷卸し時 ・1回／日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた場合に1回は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとすることができる。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとすることができる。	スランプ 5cm以上 8cm未満 : 試容積 ±1.5cm スランプ 8cm以上 18cm以下 : 試容積 ±2.5cm	規格値	
	空気量 (管3-18)	試験項目 (管3-18)	試験方法 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 ・荷卸し時 ・1回／日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた場合に1回は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとすることができる。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとすることができる。	±1.5% (試容差)		
	塩化物總量規制 (管3-12)	試験項目 (管3-12)	試験方法 コンクリートの耐久性向上 ヨコシマラ社 ・荷卸し時 ・1回／日以上(午前、午後)コントリート打設前に荷卸し、その試験結果が未満の場合は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を用いる場合は、海砂の塩化物残余量有率試験方法(JSC-T-592-2013.5.03-2007)又は設計団体の規定により行う。 ・用心筋筋等を有さない無筋構造物の場合は、着脱できる。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を用いる場合は、海砂の塩化物残余量有率試験方法(JSC-T-592-2013.5.03-2007)又は設計団体の規定により行う。	原則0.3 kg/m ³ 以下		
	単位水流量測定 (管3-14)	試験項目 (管3-14)	試験方法 レジスター式 ・荷卸し時 100 m ³ /日以上の場合；2回／日(午前1回、午後1回) 示法が20～25mmの場合は17.5kg／分、40mmの場合は16.5kg／mを基本とする	方配合の単位水量が、配合設計士±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車のコンは打設する。 その後、配合設計士±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行ふ。 3) 配合設計士20kg/m ³ の標準値を越える場合は、生コンを打込みずしに、持ち帰らせ、配合設計士15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行ふ。なお、管理員または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施する。更に、小さなさいかで評価してよい。	1) 制定した単位水量が、配合設計士±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行ふ。 3) 配合設計士20kg/m ³ の標準値を越える場合は、生コンを打込みずしに、持ち帰らせ、配合設計士15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行ふ。なお、管理員または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施する。更に、小さなさいかで評価してよい。		
	コンクリート受入時 に必要な試験を実施 しており、温度、ス ランプ、空気量等の 測定結果が確認でき る。	コンクリート受入	コンクリートの重複強度試験 (管3-16)	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。 またはデバイシングトヨタ工場の品質証明書等のみとする。 ・1回／日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回。なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6個(Φ7...3個、Φ28...3個)とする。 (早強セメントを使用する場合は、必要に応じて1回につき3個(Φ3)を追加で採取する)	1回の試験結果は指定した呼び強度の95%以上であること ・3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	・1回の試験結果は指定した呼び強度の95%以上であること ・3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	
	正縮強度試験 (管3-16)	試験項目 (管3-16)	試験方法 JIS A 1108 ・荷卸し時 日平均気温が25°Cを超えることが予想されるときは、 暑中コンクリートとしての施工を行つており、また、 コンクリート材料の温度を、品質が確保できる範囲内 で使用していることが確認できる。(共I-66)	□ □ □ □ □ □ □		日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の範囲内の平均をいう。 各中コンクリートの適用に関する判断は受注者へのヒアリングにて確認を行う。	
	打設前	【暑中コンクリート】	日平均気温が4°C以下になることが予想される ときには、寒中コンクリートとしての施工を行つ ていることがある。(共I-67)	□ □ □ □ □			
	打設前						

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月
主任監督員	

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄				備考
				下段：コメント	□	□	□	
コンクリート 打設	施工時	練混せから打ち終わるまでの時間は、原則として外気温が25℃を超えないことが確認できる。 (共1-56)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
	施工時	コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超える25℃以下の範囲に予想されるとときに実施していることが確認できる。 (共1-56)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
	施工時	コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。 (共1-57)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
	施工時	シュー、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。 (共1-57)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
施工条件 に適した運搬時間、 打設時の投入高さ及 び締固め方法が、定 められた条件を満足 していることが確認 できる。	【暑中コンクリート】	日平均気温が25℃を超えることが予想されると なり、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。 (共1-66)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
	打設前	日平均気温が4℃以下になることが予想されると きは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打 込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸 法、気象条件等を考慮して、5~20℃の範囲に保つて いることが確認できる。 (共1-67)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃を 越える場合は2.0時間以内となっていること が確認できる。 (コ示-118)	施工時	許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃を 越える場合は2.5時間以内となっていること が確認できる。 (コ示-118)	□	□	□	□	□	□
			□	□	□	□	□	□
	施工時	許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃以 下の場合は2.5時間以内となっていること が確認できる。 (コ示-118)	□	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :

工期 :

年 月 日 ~ 年 月

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目						備考
			上段：日付・チェック欄			下段：コメント			
コンクリート打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、バイブレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。(コ示-122)	<input type="checkbox"/>	これまでの施工実績に基づき、1箇所あたりの振動時間は5~15秒とする。				
コンクリート打設	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、バイブルーターを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。(共1-58)	施工時	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、バイブルーターを下層のコンクリートとみなるように入念に締め固めていることが確認できる。	<input type="checkbox"/>					
コンクリート打設	コンクリートの打設前に打ち継ぎ目処理を行っていられることが確認できる。	施工時	硬化したコンクリートに、新コンクリートを打継ぐ場合は、その打込み前に型枠をしめ直し、硬化したコンクリートの表面のレイタス、緩んだ骨材粒、品質の悪いコンクリート、雑物などを取り除き吸水させていることが確認できる。(共1-59)	<input type="checkbox"/>	その他のセメントや骨材や施工養生方法等による影響を考慮して確認する。				
コンクリート打設	コンクリートの表面を荒らさないで作業で行きを標準に、露出面を十分な湿潤状態に保つていることが確認できる。(共1-60)	施工時	コンクリートの表面を荒らさないで作業で行きを標準に、露出面を十分な湿潤状態に保つていることが確認できる。(共1-60)	<input type="checkbox"/>	その他のセメントや骨材や施工養生方法等による影響を考慮して確認する。				
コンクリートの仕様書の養生	コンクリートの仕様書の仕様が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	【暑中コンクリート】特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐために必要な処置を行っていることが確認できる。(コ示-174)	<input type="checkbox"/>	散水、シートによる覆い等による適切な処置が必要。				
コンクリート打設	打ち込まれたコンクリートは露出面が外気温に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。(コ示-165)	施工時	打ち込まれたコンクリートは露出面が外気温に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。(コ示-165)	<input type="checkbox"/>	打設後直ちにシートその他適切な材料で表面を覆ぐことが重要。				

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

5. 砂防堰堤工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			下段 : コメント			備考
				/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
		施工前	型枠・支保工の取外しの時期及び順序について、設計図書に定められていない場合は、配合、強度管理、打設条件等を考慮して、取外しの時期及び順序の計画面を施工計画書に記載していることが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による。
		脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取外していいことが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
脱型			型枠の組立に使用した締付け材の穴及び壁つなぎの穴を、本体コンクリートと同等以上の品質を有するモルタル等で補修していくことが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	コンクリート表面から2.5cmの間にあるボルト、棒鋼等の部分は注意が必要
		脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
		脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

6. 斜面対策工（地すべり対策工事）

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目			上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考
			施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。（共1-5）	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。（共1-5）			
準備工	アシカーの施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	材料を保管する場合は、保管場所を水平で平らな所を選び、地表面と接しないようにシート等で覆い、湿気、水に対する配慮を行っていることが確認できる。（共8-16）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
法面工 抑止アカ-工	ボーリング等の施工が適切であることが確認できる	施工時	削孔にあたり、アンカー定着部の位置が設計図書に示された位置に達したことを、削孔延長、削孔土砂等により確認するとともに、確認結果を監督員に提出していることが確認できる。（共8-16）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	削孔が終了した場合は、原則として孔内を清水により十分洗浄し、スライム等を除去していることが確認できる。（共8-16）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	注入されたグラウトが設計図書に示された強度に達した後、設計図書に示された残存引張り力が得られるよう初期緊張力を与えていることが確認できる。（共8-16）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	せん孔中、多量の湧水があつた場合、又は予定深度まで掘進した後においても排水の目的を達しない場合は、速やかに監督員に報告し、設計図書に開して指示を受けていることが確認できる。（共8-19）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	せん孔中、断層、き裂により、湧水等に変化を認めた場合、直ちに監督員に連絡していることが確認できる。（共8-19）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地下水 排除工	集水井の掘削が予定深度まで掘削しない前に多量の湧水があつた場合、または予定深度まで掘削した後においても湧水がない場合には、速やかに監督員に報告し、設計図書に開して指示を受けていることが確認できる。（共8-19）	施工時	集水井の掘削が予定深度まで掘削しない前に多量の湧水があつた場合、または予定深度まで掘削した後においても湧水がない場合には、速やかに監督員に報告し、設計図書に開して指示を受けていることが確認できる。（共8-19）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
施工フロー		確認ポイント		時期		確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考	
地下水 排除工 事	集排水ボーリング工 事の施工が適切である ことが確認できる	施工時	保孔管は削孔全長に挿入し、設計図書に指 定するものを除き硬質塩化ビニール管とし ていることが確認できる。(共8-19)	<input type="checkbox"/>									
				<input type="checkbox"/>									
	集排水ボーリング工 事及び角度が適正となるよう に施工上の配慮を していることが確認できる	施工時	保孔管のストレーナー加工は設計図書どおり であることが確認できる。(共8-19)	<input type="checkbox"/>									
				<input type="checkbox"/>									
抑止杭工 事	既製杭の施工が適切 であることが確認で きる	施工時	方向及び角度が適正となるよう施工上の 配慮をしていることが確認できる。(自 明)	<input type="checkbox"/>									
				<input type="checkbox"/>									
	既製杭の施工が適 切であることが確認 できる	施工前	集水井の設置位置及び深度について、現地の状況によ り設計図書に定めた設置位置及び深度に支障がある場 合は、設計図書に関して監督員と協議していることが 確認できる。(共8-20)	<input type="checkbox"/>									
				<input type="checkbox"/>									
施工計画書に記載し ていることが確認で きる	施工時	杭の施工順序について施工計画書に記載し ていることが確認できる。(共8-20)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
既製杭の施工が適切 であることが確認で きる	施工時	あらかじめ杭の打止め管理方法(ベン書き法による貫入量、 リバーサンドの測定あるいは杭頭計測法による動的貫入抵抗の 測定など)等を定め施工計画書に記載し、施工工場にあたり施工 記録を整備及び保管し、監督員の請求があつた場合は、速や かに提示するとともに検査時に監督員へ提出していることが 確認できる。(共3-51)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
施工フロー		確認ポイント		時 期		確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考	
6. 斜面対策工（地すべり対策工事）	既製杭の施工が適切である	施工時	鋼管杭および引鋼杭の現場縦手については、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。（自明）			<input type="checkbox"/>							
	深基礎工の施工が適切である	施工時	孔底が設計図書に示す支持地盤に達したことを、掘削深度、掘削土砂、地質柱状図などにより確認し、その資料を整備及び保管し、監督員の請求があつた場合は、速やかに提示するとともに、検査時に監督員へ提出していることが確認できる。（共3-57）			<input type="checkbox"/>							
	ライナープレートの組立で施工しているところが確認できる	施工時	コンクリート打設にあたっては、打込み量および打込み高を常に計測していることが確認できる。（共3-57）			<input type="checkbox"/>							
	抑止杭工	施工時	深基礎において鉄筋を組み立てる場合は、曲がりやよじれが生じないように土留材に固定していることが確認できる。（共3-57）			<input type="checkbox"/>							
		施工時	鉄筋かごの組立てにあたり、コンクリート打込みの際に鉄筋が動かないよう、堅固なものとされていることが確認できる。（共3-56）			<input type="checkbox"/>							
		施工時	土留め材と地山との間に生じた空隙部には、全長にわたって裏込注入を行っていることが確認できる。なお、裏込注入材料が設計図書に示されていない場合には監督員の承諾を得ていることが確認できる。（共3-58）			<input type="checkbox"/>							
		施工時	深基礎掘削を行うにあたり、常に鉛直を保持し支持地盤まで連続して掘削するとともに、余掘りは最小限にしていることが確認できる。また、常に孔内の排水を行っていることが確認できる。（共3-57）			<input type="checkbox"/>							
		施工時	ライナープレートの組立にあたっては偏心と歪みができるだけ小さくしていることが確認できる。（共3-58）			<input type="checkbox"/>							

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		備考
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	/	/	/
	使用する材料の種類、品質、配合等が満足していることが確認できる。	施工前	使用する材料の種類、品質及び配合について設計図書に示された材料、配合となつていることが確認できる。(共3-150)	/	/	/
	施工に際して、品質と異なる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工している。	施工時	工事実施の配合決定にあたっては、発芽率を考慮の上で決定し、監督職員の承諾を得たものとなっていることが確認できる。(共3-150)	/	/	/
	盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを行っている。	施工時	盛土面に施工する場合は、盛土表面を締固め、平滑に仕上げていることが確認できる。掘削面に施工する場合は、切りすぎないよう平滑に仕上げ、切りすぎた場合は、粘性土を使用し良くなじませていていることが確認できる。(共3-154)	/	/	/
基面処理工	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	雨水による崩壊が起こらないよう、排水対策を実施していることが確認できる。(共1-39)	/	/	/

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
主任監督員		

7. 法面工①(種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄				備考
				上段 : 日付	下段 : コメント	□	□	
基面処理工	土裏試験の結果を施工に反映していることとが確認できる。	施工時	種子散布布施工及び客土吹付工前に着手する前に、法面の土壤頑度試験及び土壤試験(PH)を行っていることとが確認できる。(共3-151)	□	□	□	□	□
ラス張り工	所定の位置にしっかりと固定されていることが確認できる。	施工時	設計図書に示す仕上がり面から間隔を確保し、かつ吹付け等により移動しないように、法面に固定していることが確認できる。また、金網の継手のかさね巾は、10cm以上重ねていることとが確認できる。(共3-153)	□	□	□	□	□
	施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	施工時期が設計図書に示された施工時期となつているところが確認できる。(施工時期が示されていない場合には乾燥期を避けて施工されているか。やむを得ず乾燥期に施工する場合は、施工後も継続した散水養生を行っている。)(共3-151)	□	□	□	□	□
	吹付け厚さが均等であることが確認できる。	施工時	吹付け厚さが均等になるよう施工していることが確認できる。(共3-152)	□	□	□	□	□
植生基材吹付	ネットなどの境界に隙間がないことが確認できる。	施工時	植生シート、植生マットの施工に隙間が生じていないことが確認できる。(共3-152)	□	□	□	□	□
	ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。	施工時	植生シート、植生マットの施工により破損しないよう、ネットが取り付けられていることが確認できる。(共3-152)	□	□	□	□	□
	吹付けの施工完了後は、発芽または枯死予防のため保護養生を行っていることが確認できる。	施工時	吹付けの施工完了後は、発芽または枯死予防のため保護養生を行っていることが確認できる。(共3-151)	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
施工フロー		確認ポイント		時期		確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリート及びモルタルの配合が、設計図書に示された配合となっていることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>									
	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。	施工時	盛土面上に施工する場合は、盛土表面を締固め、平滑に仕上げていることが確認できる。掘削面に施工する場合は、切りすぎないように平滑に仕上げ、切りすぎた場合は、粘性土を使用し良くなじませていていることが確認できる。(共3-154)	<input type="checkbox"/>									
	施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。	施工時	緩んだ転石、岩塊等は基面の安定のために緩和除去していることが確認できる。(共3-154)	<input type="checkbox"/>									
	盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを行っていることが確認できる。	施工時	吹付工の施工にあたり、吹付け面が岩盤の場合は、ごみ、泥土、浮石等の付着によるものが除去され、また、吹付け面が土砂の場合は、吹付け圧により土砂が散乱しないよう施工していることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>									
基面処理工	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	盛土部法面整形の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを行っていることが確認できる。(共1-37)	<input type="checkbox"/>									
	吸水性の吹付面において、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	雨水による崩壊が起こらないよう、排水対策を実施していることが確認できる。(共1-39)	<input type="checkbox"/>									
	吸水性の吹付面において、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	吹付面が吸水性の場合は、事前に吸水させていることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>									

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

8. 法面工②(コンクリート吹付け工、モルタル吹付け工)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄				コメント	備考
				□	□	□	□		
ラス張り工	金網の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。	施工時	設計図書に示す仕上がり面から間隔を確保し、かつ吹付け等により移動しないよう、法面に固定していることが確認できる。また、金網の継手のかさね巾は、10cm以上重ねていることが確認できる。(共3-153)	□	□	□	□	□	□
	金網に破損が生じていないことを確認できる。	施工時	金網に破損が生じないことが確認できる。(自明)	□	□	□	□	□	□
	吹付け厚さが均等であることが確認できる。	施工時	吹付け厚さが均等になるよう施工していることが確認できる。(共3-152)	□	□	□	□	□	□
	吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。	施工時	吹付けを2層以上に分けた場合には、層間に剥離が生じないよう施工していることが確認できる。(共3-153)	□	□	□	□	□	□
	不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の處理を行っていることが確認できる。	施工時	吹付けにあたっては、法面に直角に吹き付け、法面の上部より順次下部へ吹付け、跳ね返り材料の上に吹付けないよう施工されていることが確認できる。(共3-153)	□	□	□	□	□	□
吹付	法肩の吹付けにあたり、地山に巻き込んで施工していることが確認できる。	施工時	吹付けに際しては、他の構造物を汚さないように施工され、また、跳ね返り材料は、施工するみやかに取り除いて不良箇所が生じないように施工されていることが確認できる。(共3-153)	□	□	□	□	□	□
	法肩の吹付けにあたりは、雨水などが浸透しないよう地山に巻き込んで施工していることが確認できる。(共3-153)	施工時	法肩の吹付けにあたりは、雨水などが浸透しないよう地山に巻き込んで施工していることが確認できる。(共3-153)	□	□	□	□	□	□
	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	施工時	当該現場で採取した供試体と圧縮強度試験時の供試体とが同一品であることが確認できる。(自明)	□	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員			
施工フロー		確認ポイント	時期	確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント	
準備工 基面処理工	施工計画・施工方法 は適切であることが 確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが 確認できる。(共1-5)	/	/	/	/	/	/
	使用する材料の種類、品 質、配合等が設計図書の仕 様を満足していることが確 認できる。	施工前	コンクリート及びモルタルの配合が、設計 図書に示された配合となつていていることが確 認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>					
	施工基面を平滑に仕 上げていることが確 認できる。	施工時	盛土面に施工する場合は、盛土表面を締固め、平滑に 仕上げていることがが確認できる。掘削面に施工する場 合は、切りすぎないよう平滑に仕上げ、たまたま場 合は、粘性土を使用し良く締め固めていることが確認 できる。(共3-154)	<input type="checkbox"/>					
	施工に際して、品質 に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除 いている。	施工時	法棒工を施工するにあたり、法面を平坦に仕上げた後 に部材を法面上に定着し、すべらないように積み上げて いることが確認できる。(共3-154)	<input type="checkbox"/>					
	盛土の施工にあたり、法面 の崩壊が起こらないよう締 固めを十分行っていること が確認できる。	施工時	緩んだ転石、岩塊等は基面の安定のためには 除去していることが確認できる。(共3- 154)	<input type="checkbox"/>					
	雨水による崩壊が起こらないよ うに、排水対策を実施 していることが確認できる。	施工時	盛土部法面整形の施工にあたり、緩んだ 転石、岩塊等が基面の安定のためには除去さ れていていることが確認できる。(共3-154)	<input type="checkbox"/>					
	吸水性の吹付面において、 事前に吸水させてから施工 していることが確認できる。	施工時	雨水による崩壊が起こらないよう、排水 対策を実施していることが確認できる。 (共1-39)	<input type="checkbox"/>					
			吹付面が吸水性の場合は、事前に吸水させ ていることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>					

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		備考
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント
アンカーワーク	アンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。	施工時	アンカーの削孔に際して、設計図書に示された位置、削孔径、長さおよび方向とつながり、周辺の地盤を乱さないように施工していることが確認できる。(共3-156)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	吹付け厚さが均等である。	施工時	吹付け厚さが均等になるよう施工していることが確認できる。(共3-152)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	層間に剥離がないことが確認できる。	施工時	吹付けを2層以上に分けていること間に剥離が生じないよう施工していることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。	施工時	吹付けにあたっては、法面に直角に吹き付け、法面の上部より順次下部へ吹付け、跳ね返り材料の上に吹付けないよう施工されていることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コクリート打設(吹付)		施工時	吹付けに際しては、他の構造物を汚さないように施工されいていることが確認できる。また、跳ね返り材料は、すみやかに取り除いて不良箇所が生じないように施工されていることが確認できる。(共3-153)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	現場養生が、設計図書に仕様を満足するように実施されている。	施工時	現場養生が、設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	柱内に空隙が無いことが確認できる。	施工時	柱内に玉石などを詰める場合は、グラッシュヤラン等で空隙を充填しながら施工していることが確認できる。(共3-154)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	施工時	当該現場で採取した供試体と圧縮強度試験時の供試体とが同一品であることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		備考
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	/	/	/ / / / / / /
	杭の形状寸法等は規定を満足していることが確認できる。	施工前	杭の形状寸法は設計図書を満足していることが確認できる。(自明)	□	□	□ □ □ □ □ □
	搬入された杭は所要の規格を満足していることが確認できる。	施工前	搬入された杭について、品質証明書等で規格を満足していることが確認できる。(自明)	□	□	□ □ □ □ □ □
杭受け入れ	杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。	施工前	杭の運搬、保管にあたっては、杭の表面、フランジ繰端部、継手、開先部分などに損傷をえず、また、杭の断面特性を考えて大きなたわみ、変形を生じないようにしてあることが確認できる。(共3-53)	□	□	□ □ □ □ □ □
	既製杭の打止め管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。	施工時	あらかじめ杭の打止め管理方法(ペン書き法による貫入量、リバウンドの測定など)等を定め施工記録を整備及び保管していることが確認できる。(共3-51)	□	□	□ □ □ □ □ □
	試験杭施工を実施していることが確認できる。	施工時	掘削および沈設中は土質性状の変化や杭の沈設状況などを観察し、杭先端部および杭周辺地盤を乱さないように沈設していることが確認できる。また、先端処理についても、試験杭等の打ち止め条件に基づいて最終打ち止め管理を行っていることが確認できる。(共3-51)	□	□	□ □ □ □ □ □
鋼管杭 打込工	水平度、鉛直度等が設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	設計図書に示す工事目的物の基礎杭の一部として使用していることが確認できる。(共3-55)	□	□	□ □ □ □ □ □
	常に鉛直を保持し、所定の深度まで確実に掘削していることが確認できる。(共3-55)	施工時	常に鉛直を保持し、所定の深度まで確実に掘削していることが確認できる。(共3-55)	□	□	□ □ □ □ □ □

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :		年 月 日 ~ 年 月		
主任監督員					
10. 基礎工①（既製杭工（既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭））					
施工フロー	確認点	時期	確認項目		
			上段：日付・チェック欄		
鋼管杭 打込工	支持地盤まで達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。	施工時	杭先端が設計図書に示された支持層に達したことなどが確認ができる。(共3-52)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	杭継ぎ	施工時	現場継手を溶接継手による場合に際しては、アーク溶接継手とし、現場溶接を行なう溶接施工の選定及び溶接の管理、指導、検査及び記録を行なう溶接施工管理者を常駐させていることが確認できる。(共3-53)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	溶接にて從事する溶接工の資格証明書が確認できる。(共3-53)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			※ 鋼管杭及びH鋼杭の溶接は、JIS Z 3801（手溶接技術検定における試験方法及び判定基準）に定められた試験のうち、その作業に該当する試験（または同等以上の検定試験）に合格した者でかつ現場溶接の施工経験が6ヵ月以上の者に行なわれる試験方法及び判定基準）に定められている。ただし、半自動溶接を行う場合は、JIS Z 3841（半自動溶接技術検定における試験（またはこれと同等以上の検定試験）に合格した者に行なわれている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		溶接の品質管理に関する規定書の仕様を満足していることなどが確認できる。	施工時	溶接部の表面のさび、ごみ、泥土等の有害な付着物をワイヤブラシ等でみがいて清掃し、乾燥させていることが確認できる。(共3-53)	<input type="checkbox"/>
			上杭の建込みにあたつては、上下軸が一致するように行い、表3-2-16の許容値を満足するように施工していることが確認できる。(共3-53)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 溶接箇所の確認					
施工時	上段：日付・チェック欄			下段：コメント	
	上段：日付・チェック欄			備考	
溶接完了後、溶接箇所について、欠陥の有無について確認を行っていることが確認ができる。(共3-54)	施工時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

表 3-2-16 現場円筒溶接部の目視の許容値		
外径	許容量	摘要
700mm未満	2mm以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。
700mm以上 1016mm以下	3mm以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。
1016mmを超える	4mm以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

10. 基礎工①(既製杭工(既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭))

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄				備考
				上段 : 日付	下段 : コメント	□	□	
杭先端処理 (セメントミルク噴出攪拌方式)	セメントミルクの配合は設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	セメントミルクの配合は設計図書を満足していることが確認できる。(共3-52)	□	□	□	□	□
	強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理料を整理していることが確認できる。	施工時	セメントミルクの品質管理を実施しておきり、規格を満足していることが確認できる。(共3-52)	□	□	□	□	□
杭頭処理	杭頭処理において、杭本体を損傷していないのが確認できる。	施工時	杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないよう施工していることが確認できる。(共3-51)	□	□	□	□	□